

令和4年度

事業計画書

学校法人 亜細亜学園

## 令和4年度事業計画について

学校法人亜細亜学園は、令和4年度事業計画を以下のとおり策定する。

### 1. 基本方針

本学園は、建学の精神及び建学の使命に基づき平成28年に「亜細亜大学中長期計画—アジア未来マップ2025」を策定し、「多様な夢に挑み、アジアの未来に飛躍する創造的人材の育成」というミッションを実現するため、3カ年中期行動計画を作成し、取り組んできた。

寄附行為の変更に伴い、中期行動計画の期間を3カ年から5カ年に延長した結果、令和4年度からは、5カ年での第3期中期行動計画が始まる。

第3期5カ年中期行動計画では、ビジョンを「自立と自己実現に向けて主体的に考え行動し、相互の多様性を尊重しつつ、アジアを中心とする国際社会で活躍する人材の育成」と一部修正をして、ミッションの実現を図っていく行動計画とした。

令和4年度は、この第3期5カ年中期行動計画の初年度となるが、本年度においては、社会の変化に対応した新しい学科の開設準備やアジア学修の浸透及び国際交流の持続的展開を図るとともに、主体的学修力の育成を強化し、楽しいキャンパスライフ、面白授業により学生満足度の向上を達成する。

また、本学の既存資源（教育・研究・国際交流・スポーツ等）を更に積極的に活用し、地域・社会連携活動の一層の発展を目指す。

### 2. 令和4年度重点項目 —重点化施策と具体的な取り組み—

#### (1) 国際化施策

1-1 実留学体験者数を令和元（2019）年水準に戻し、更に増加させるため、多彩な留学プログラム実現計画を立案し、独自の留学体系を明示する。また、English Cafe の開設により、英会話の日常化を推進するとともに、多様な留学を実現するための規程改正、奨学金制度改定、留学後の支援制度の構築を図る。

1-2 アジア地域を体験する学生を増加させるため、留学奨励金規程の改正、アジア体験学生数調査・分析、交流イベント企画等、アジア地域体験奨励の手段、方法を提案する。また、留学生会主催イベント、協定校とのオンライン交流企画、アジア地域体験報告会の実施や夏季・春季短期アジアインターンシッププログラム導入の準備をする。

1-3 アジア地域からの留学生数の増加を目指すため、外国人留学志願者向けの入試広報活動を強化する。また、ASEAN 諸国留学生奨学金給付学生募集活動の強化、留学生別科への交換留学生受入再開に向けた受入体制の検討、外国人留学生対象奨学金の全般的な見直しを行い、外国人留学生数330名（在籍学生総数の5.5%）の達成を目指す。

1-4 ASEAN 諸国留学生奨学金給付学生をはじめとする留学生の学修及び就職活動を

支援するため、国際連携部と学生部の協力を緊密にする。また、外国人留学生の活動紹介、卒業した外国人留学生の活躍紹介、ASEAN 諸国留学生奨学金制度の事業報告等を大学公式サイトに掲載する。総じて、日本で就職を希望する外国人留学生の就職率「80%」達成を目指す。

## (2) 教育・研究活動施策

2-1 各学部・学科等が主体となって、「面白い」授業、また「役に立つ」授業を増加させるよう支援する。その一環として、学内で実施しているアンケート結果を収集・分析し、全学的課題を共有する体制を構築する。

2-2 学修者本位の視点に立って、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」をより明確に学生に示し、学生が自身の学修の到達点及び学修特性を確認できる仕組みを構築する。このため、まずカリキュラムマップを作成し、学位授与の方針との関連性を明示化する。あわせて、外部試験で取得している情報を可視化し、学生が自身の学修成果を把握できるシステムの構築案を作成する。また、学修成果データの一部を大学公式サイトで公表することを検討する。

2-3 すべての学生が、社会で求められる文書作成能力、資料調査の方法、データ解析力、プレゼンテーションと討論の技法を修得できるようにするため、全学的な推奨科目の枠組み構築を図る。また、大学公式サイト等を通じて、本学の初年次教育の特長について、周知・広報活動を強化する。

2-4 「対面授業」と「オンライン授業」それぞれの特質を生かせるベストミックス授業体制を構築するため、after コロナの社会状況、大学設置基準による遠隔授業の単位認定弾力化等の状況を確認し、オンライン授業科目の開講基準を再検討する。

2-5 学生満足度向上につながる全学 DX 基礎対応を推進するため、Wi-Fi 基盤整備強化、BYOD（PC 持参）、証明書オンライン発行、PC 教室リニューアル、チャットボット導入、サポートデスクの設置等を検討する。

2-6 「経営学部データサイエンス学科（届出準備中）」の令和 5（2023）年 4 月開設に向けた準備を推進し、新学科を軸にすべての学生がデータサイエンス分野の基礎知識を修得できる仕組みを定着させる。この一環として、特にデータサイエンス副専攻については、その点検評価結果を公表し、あわせて外部評価を実施し、次年度以降の改善に活用する。

2-7 研究活動を更に奨励し、外部公表の促進、内部共有の充実を目指す。このため、研究成果の外部公表・内部共有体制の検討及び科学研究費助成事業で採択された研究課題の「研究計画調書」公開（閲覧可能）を推進する。あわせて、研究のための外部資金獲得について支援する。

## (3) 学習環境・支援施策

3-1 卒業年次生アンケートを確実に実行し、回収率を引き上げ、学修環境の改善に

つなげるため、アンケート調査項目、効果的な回収方法、アンケート調査期間等について精査する。

3-2 快適で利便性が高く魅力あふれるキャンパスを構築し、迅速で親切なスタッフ対応を行うため、現状の課題を整理する。

3-3 スポーツ強化振興団体をはじめとする学内学生団体（部・サークル）の活動を支援するため、課外活動支援計画の策定、顧問向け「支援ガイドライン」の策定、学生への報奨制度の見直しを行う。

#### （４）社会連携施策

4-1 学生が企業（社会人）及び地域社会と交流する機会を増やすため、全学講演会等の実施体制を整える。

4-2 高校生向けに、アジアへの理解と関心を深める企画を展開するため、「高校生アジアフォトコンテスト」、「SDGs 出張ワークショップ」の実施について検討する。

4-3 卒業生向けの広報を強化し、卒業生と在校生の交流機会を拡充するため、SNS利用の拡充を図る。また、社会で活躍する卒業生についての広報活動を強化し、あわせて卒業生からの支援を募る多様な方式について検討する。

4-4 研究成果の広報を拡充し、研究成果を地域及び社会貢献に結びつけるための方策の検討を開始する。また、地域住民向け「SDGs 公開講座」の開催を企画する。

#### （５）大学運営施策

5-1 ブランディング戦略の策定及び広報活動の強化（認知度向上・志願者獲得）のため、本学認知度のイメージ調査を実施する。また、受験生・保護者・在校生・卒業生・一般等に向けた、より社会性の高い情報発信ツールとするため大学公式サイトをリニューアルする。あわせて、学部学科の改編あるいは開設等を含む将来構想の検討を開始する。

5-2 本学の持続的発展を支えるガバナンス体制を構築するため、日本私立大学連盟が策定した私立大学ガバナンス・コードの運用を開始する。

5-3 DX 時代に対応すべく教育環境整備の計画を含め、大学事務の業務改善・効率化を図るため、事務業務の電子化プロジェクトを設置する。

5-4 教育・研究活動を安定的に支える財政基盤として、経常収支差額比率 2.5%を目標とする。

5-5 事務職員人材育成の強化のため、役職者対象人事労務研修、評価者訓練、目標達成のための能力向上研修を実施する。また、全学的に情報セキュリティ対策研修や個人情報保護に関する研修等も実施する。

5-6 日の出キャンパス再開発の確実な推進と既存建物の計画的な修繕・改修工事の実施とともに、将来構想に向けた武蔵野キャンパスマスタープランの検討を開始する。

5-7 大学として、SDGs 宣言を行い、SDGs の実現に向けた様々な教育・研究活動や大学運営における取り組みを集約する。

### 3. 人事

令和4年度の専任職員数は以下のとおりである。

教育職員（特任及び1号客員含む）								事務職員	総合計
経営学部	経済学部	法学部	国際関係学部	都市創造学部	アジア研究所	英語教育センター	合計		
44名	25名	30名	35名	16名	5名	28名	183名	132名	315名

（令和4年4月1日時点）

### 4. 財務

令和4年度予算については、業務改革による改善を一層推進することにより、教育活動収入は8,374百万円、教育活動支出は8,185百万円となり、教育活動収支差額を189百万円の収入超過とする予算を編成する。

### 5. 施設・設備

令和4年度の施設・設備関係予算は、合計2,560百万円である。

【内訳】経費支出：432百万円、設備投資：2,128百万円）

日の出キャンパス再開発計画、ICT教育環境整備計画、太田耕造記念館補修工事等を実施することにより、教育環境の整備充実とスポーツ振興を更に推進する。

#### （1）日の出キャンパス再開発計画

第2期開発計画を継続して、トレーニングセンター・クラブハウス、雨天体操場、及びブルペンを建築する。

第3期は、多目的グラウンドの人工芝化、ランニングコースの新設、テニスコートの改修工事を実施して、再開発計画が完了する。

トレーニングセンター及び雨天体操場は、スポーツ環境を整備するとともに地域のスポーツ振興に貢献するため学外へも開放する。

事業費：1,826百万円

（内、経費支出：98百万円、設備投資：1,728百万円）

総事業費：4,078百万円（令和2年度～令和4年度）

工事期間：令和2年6月～令和5年3月

#### （2）ICT教育環境整備計画

ICTを活用した多様な授業形態による教育を提供するため、情報環境を整備する。

事業費：188百万円

(内、経費支出：94百万円、設備投資：94百万円)

工事期間：令和3年1月～令和9年3月

(3) 情報環境整備計画

教育基幹システム関連更新・5号館AV教室操作卓・7号館コンピューター教室のリプレイスを実施する。

事業費：318百万円

(内、経費支出：50百万円、設備投資：268百万円)

工事期間：令和4年4月～令和5年3月

(4) 太田耕造記念館改修工事

老朽化している太田耕造記念館について、外壁補修及び屋上防水工事を実施する。

事業費：140百万円(経費支出)

工事期間：令和4年4月～令和4年10月

(5) キャンパス環境の整備

① 8号館・8号館別館・学友会館屋上防水工事

事業費：21百万円(経費支出)

工事期間：令和4年7月～令和4年9月

② 旧2号館・3号館冷温水機操作盤整備工事

事業費：11百万円(経費支出)

工事期間：令和4年4月～令和4年5月

③ 新2号館北側自動ドア取換工事

事業費：4百万円(設備投資)

工事期間：令和4年8月～令和4年9月

(6) その他

学術研究及び教育活動、学修支援に必要な図書等の充実を図る。

事業費：52百万円

(内、経費支出：18百万円、設備投資：34百万円)

以上